Tour Conducting Service Association in Japan
TCSA NEWS
（一社）日本添乗サービス協会
2019.12.27
Vol.99

OPINION　2020 年東京オリンピックを迎えて

2019 年 4 月「働き方改革関連法」が施行され旅行業界においても残業時間制限などの大きな変化で始まり 5 月 1 日には平成の時代が終わりをつげ令和元年が始まり新しい時代が到来しました。また 2020 年 4 月より派遣法改正に伴う「同一労働同一賃金法」が施行される予定です。この目まぐるしく変わる労働派遣関連法の最中、1964 年以来のオリンピックを再びこの東京で迎えます。私共の業界においてもオリンピックを地元開催で迎えられることは一生に一度と言っても過言ではありません。この東京オリッピックを迎えるあたり少しお話をさせて頂きます。

話は 2000 年のシドニーオリッピックに遡りますがこのシドニーオリッピックに旅行関係者の一員として携わることが出来、今でも当時の出来事が走馬灯のように浮かび上がります。オリンピック開催の 1 年前 1999 年 9 月、開催から 1 年を切り現地組織委員会主導でまだ決まっていない案件が山積しており当時、本当に開催まで間に合うのかと危惧している状況が続いていました。

空港から市内までの導線、バスの駐車スペース、メイン会場への導線、及びバスの待機場所等などが整備されておらず何回か視察に行き最終的に整備されたのは開会式の 1ヶ月前だったと記憶しています。危惧は幸い危惧で終わり開会式にはしっかり準備が整い私は開会式当日、競技場内の歓声を外で聞きながらバスのディパッチをしておりました。ただ聞こえる歓声など経験したことない雰囲気を味わいながら仕事をしていた記憶がございます。街中にも 7 カ所のパブリックビューイング（多分オリンピックで最初に始まったのはシドニーの街だったと思われます）にパナソニックの大型スクリーンが 7 会場に設置され開催中は連日連夜市民、観光客で大いに盛り上がっており、人との暖かい交流が街のいたるところで行われておりました。その再現が 2020 年に東京で行われます。

東京オリンピックに携わる旅行業界の方々、また添乗員の皆様には通常の仕事とは一味も二味も違った経験をされる方が多くいらっしゃると思います。世界中が注目しているスポーツ界最大のイベントです。世界中から真夏の東京を目指して人々が集まりメディアを通してその模様が世界に配信されます。日頃添乗員の方々がお客様に対して行っているきめ細やかな気遣いを東京に来訪される世界中のお客様に是非行って頂き一人でも多くのお客様に感動を与える演出の手伝いを行って下さい。必ず今後の仕事に繋がる財産となります。今年の流行語大賞にも選ばれた ONE TEAM で東京オリンピックを業界全体で盛り上げ成功させましょう。

（株）エスティーエス
取締役社長 忽那 裕 氏

CONTENTS

OPINION――――1
2020 年東京オリンピックを迎えて
（株）エスティーエス
取締役社長 忽那 裕 氏

特集――――2
大阪初開催!
「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2019 表彰式」&
「パネルディスカッション」をツーリズム EXPO 会場で開催!

TOP INTERVIEW――――4
観光庁長官 田端 浩氏
への書面インタビュー

TCSA REPORT――――6
広報イベント委員会主催
「若年添乗員インタビュー」を開催

TCSA だより――――8
TCSA,JATA,ANTA 共催で
「同一労働同一賃金セミナー」を開催
第 34 回通常総会のお知らせ

特集！

大阪初開催！
「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2019 表彰式」&「パネルディスカッション」をツーリズム EXPO 会場で開催！

今年、初めて関西で開催された「ツーリズム EXPO ジャパン 2019」会場のインデックス大阪の A ステージで 10 月 25 日（金）「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2019」表彰式及びパネルディスカッションが行われた。

主催者代表として山田隆英ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2019 実行委員会委員長が開会の挨拶をした後、来賓として観光庁観光産業課旅行業務適正化指導室井上室長が挨拶され、表彰状及び副賞の目録が授与された。その後、吉村作治ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2019 実行委員会選考委員会委員長が、“今年推薦された添乗員の方々は非常に優秀で甲乙つけがたい中、選考に苦慮された“との講評が行われた。尚、今年の受賞者は下記の通り。

グランプリ（国土交通大臣賞）　菅谷 眞弓さん（（株）ジャッツ所属）
準グランプリ（観光庁長官賞）　桝井 康平さん（（株）ﾂｰﾘｽﾄｴｷｽﾊﾟｰﾂ所属）
選考委員会委員長賞高橋　栄さん（（株）ﾌｫｰﾗﾑｼﾞｬﾊﾟﾝ所属）
日本添乗サービス協会会長賞　安田 由佳さん（（株）JTB 所属）

特別賞を受賞された（株）ティーシーエイのクマル・マトジ氏の表彰も当日会場で行った。A ステージ壇上で記念撮影を行い、引き続き、第二部パネルディスカッション「ベテラン添乗員が語る－より良い旅作りのために－」というテーマで受賞者 3 名をパネリストとして開催した。

第一クールとして、自己紹介を兼ねて、受賞の喜び、添乗専門社員になったきっかけ、第二クールとして、お客様満足度を高めるために日頃、業務上心がけていること、第三クールとして、プライベートの家庭生活と添乗員生活の両立を図る上で行っていること等の 3 点について、3 名各々が語った。

会長賞を受賞された安田由佳さんは、1997 年から 22 年間 JTBLOOK 専任コンダクターとして 3000 日以上添乗をされた“グランドマスター添乗員”であり、ヨーロッパ、特にフランス及びワインに詳しくファン層が厚い。高齢者の気持ちを知るために、老人ホームでボランティアを経験するなど向上心も高く、添乗員育成研修の講師を務め、社内の信頼も厚い。シンポジウムで添乗員の仕事について、人種や性別、年齢、環境等が異なる人々に毎回出会える仕事は他にないと語っている。

安田　由佳さん（(株) JTB 所属）

委員長賞を受賞された高橋栄さんは旅行会社会社員から 10 年前に添乗専門職に転身し、出身地岩手の「ふるさと会」の運営ボランティアも務め、社寺仏閣を巡る旅や、極東シベリアの民俗文化を訪ねる旅等の企画から関わり魅力あるツアー作りに貢献している。

高橋　栄さん（(株)ﾌｫｰﾗﾑｼﾞｬﾊﾟﾝ所属）

準グランプリを受賞された桝井康平さんは、要介護2のパーキンソン病で難病指定を受けている参加客が歩けるうちに念願の屋久島へ行きたがっていることが会話の中でわかり、縄文杉への難路を体を密着して支え、目的地まで案内し、大変感謝された。添乗中は、何をすれば旅行参加客が笑顔になってもらえるかを常に意識し、表情や様子を見て、フォローのタイミングを計っていると述べていた。
尚、グランプリを受賞された菅谷眞弓さんは添乗中で出席できなかった。

桝井　康平さん（(株)ﾂｰﾘｽﾄｴｷｽﾊﾟｰﾂ所属）

TOP INTERVIEW トップ・インタビュー

第85回ゲスト

観光庁長官 田端　浩氏

年の瀬も迫る中大変ご多忙な観光庁長官に書面インタビューをお願いいたしました。

三橋滋子会長（以下敬称略）
2020 年のオリンピック並びにパラリンピックについて、観光庁としてどのような支援や施策をお考えでいらっしゃるかまず伺わせていただけますか?

戦略的訪日プロモーションを推進

田端　浩　観光庁長官（以下敬称略）
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会には、世界各国から多くの観光客が訪日することが見込まれます。大会に向けては、観光地や公共交通機関における多言語対応等、訪日外国人旅行者の受入環境整備を推進しております。また、高齢の方や障害をお持ちの方も訪日することが見込まれるため、宿泊施設や飲食施設のバリアフリー対応を加速化していきます。

期間中の需要の拡大については健全な民泊の普及拡大等により宿泊施設の供給を確保する一方で、海外から多くのお客様においでいただくまたとない機会であり、会場周辺の地域の皆様と海外からのお客様の交流ができるよう工夫していきたいと考えています。このような交流機会の創出の観点から、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたイベント民泊の実施を関係自治体に働きかけています。イベント民泊のホストとしてゲストをお迎えした地域の皆様に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に「参加した」「一緒に作り上げた」という体験をしていただくことは、将来の魅力的な地域づくりや国際交流の活性化に生きてくると思います。まさに東京 2020 オリンピック競技大会のレガシーといえるのではないでしょうか。

さらに、日本政府観光局（JNTO）のウェブサイトやSNS等を活用し、各地域の魅力を発信するとともに、海外メディアの地方の視察を促し、開催地だけでなく、全国各地の魅力が発信されるよう、戦略的に訪日プロモーションを推進してまいります。

三橋　本年も自然災害や日韓問題等アウトバウンドについては、若干懸念材料がございますが、今後どのような喚起策を講じながら 2020 年の拡大を目指されるのでしょうか?

「若者の海外旅行推進実行会議」を立ち上げ

田端　アウトバウンドについては、昨年は 1,895 万人と過去最高を記録しました。本年1月 -11月の出国日本人数は対前年比 6.0%増の 1836 万 8 千人となっており、2020 年 2,000 万人という政府目標の達成に向けて、好調に推移してきています。

観光庁においては本年1月に、若者のアウトバウンドを促進するため、経済界、教育界、観光業界、関係省庁等の幅広い関係者から成る「若者のアウトバウンド推進実行会議」を立ち上げました。この会議において、現在、海外渡航経験がない20歳の若者に海外体験を無料で提供する「ハタチの一歩20歳初めての海外体験プロジェクト」に取り組んでいるところであり、今年の11月から日本の若者がアジア各国に旅立ち、現地の若者との交流プログラムや魅力的な観光地めぐりなどを行い、海外旅行の魅力や可能性について、参加者からも積極的な評価をいただきました。今後も日本の若者に海外体験の機会を様々な形で提供できるよう、こうした官民一体となった取組を引き続き積極的に推進して参ります。

あわせて、二国間関係の深化によるアウトバウンド促進についても重要と考えております。まず、ロシアにおいては、本年6月に、両国でお互いの訪問者数を 2023 年までにそれぞれ少なくとも20万人、合計40万人までに倍増させるという目標を含む「観光分野における 2020 年から 2023 年までの期間の共同活動プログラム」に合意したところです。本年は、極東地域への取組として、6月から官民共同企画ツアー「サハリン大自然の旅」を実施しており、400人規模の目標に対し、700人を超える結果を得ており、非常に好評でした。

また、中国においては、本年8月の日中観光大臣会合

において、「相互交流 1,500 万人」の目標に向けた今後の双方向交流の推進について意見交換が行われたところです。本年は「日中青少年交流推進年」として、日中双方の若者同士の交流が重要との認識で一致しており、今後は修学旅行の促進等を通じた両国の将来を担う青少年交流のより一層の拡大に向け、関係省庁、観光業界、教育関係者等の様々な関係者から成る官民連携の協議会を設置・運営し、その取り組みを積極的に推進して参りたいと考えております。

新ディスティネーション商品開発の促進

これらの国民相互の交流を支えるのは、我が国と各国とを結ぶ航空路線であり、双方向の観光交流の拡大のためには、直行便就航都市及び運航便数の拡大も重要です。本年9月には成田ーパース便、10月には成田ーチェンナイ便が就航したところであり、12月には新千歳ーシドニー便、来年にかけてはテルアビブやウラジオストク便が新規に就航する予定です。更に、来年3月には羽田空港の発着枠の拡大に伴い、羽田からの直行便就航都市及び運航便数の拡大が予定されており、観光庁としても、この機運を捉えて旅行業界と連携し、新たなディスティネーションに向けた旅行商品の造成が促進されるよう働きかけることで、各国との交流の更なる拡大を図りたいと考えております。

三橋 インバウンドについては、ラグビーワールドカップにより、プラス効果があったと存じますが、2020 年に向けてさらなる需要喚起策をお考えでしょうか?

田端 本年上期（1月から6月まで）の訪日外国人旅行者数の総数については、対前年同期比プラス 4.6%の1663万4千人と堅調に推移した一方、訪日韓国人旅行者数は、訪日旅行控えや、日韓航空路線の運休や減便により、座席供給量が減少したこと等により、7月から5ヶ月連続で前年同月比マイナスとなりました。

また、ラグビーワールドカップ出場国からは、9月、10月の2ヶ月間で対前年同期比プラス29.4%の76万4千人が訪れるなどラグビーワールドカップを観戦するために多くの方に訪日いただいたと考えております。

来年の東京オリンピック・パラリンピックでは、より多くの国の方々にお越し頂きます。ラグビーワールドカップの結果も踏まえ、開催地はもちろん、その他の地域にも訪れていただき、より多くの地域で観光の利益が共有できるよう、取り組んで参ります。

また、2020 年 4000 万人の目標達成に向けて、多言語対応や無料WiFiなど受入環境の整備、コト消費を伸ばしていくための体験型ツアーなど地域の観光コンテンツの充実、日本政府観光局による戦略的な情報発信を政府全体でスピード感を持って進めてまいります。

三橋 私どもの添乗業界にとって、アウトバウンドはもとよりインバウンドの拡大が期待されますが、インバウンドスタッフや添乗員の高齢化・添乗員不足が課題となっており、これを解消するために処遇改善等の問題を解決すべく添乗員派遣会社とともに取り組んでおります。添乗業界の現場で働きたい人たちが不足しているところについては、いかがお考えでいらっしゃいますか?

田端 近年、旅行の形態に変化が生じています。かつてはその大半が添乗員同行の団体旅行でしたが、国民の多くが海外旅行に慣れてくるに従い、個人旅行が増えてきています。

添乗員は、安心・安全・良質なツアーを提供するために不可欠な存在ですので、添乗員不足は旅行業界全体の課題として取り組んでいく必要があります。

そのため、観光庁としても、関係団体及び関係省庁と連携して、現状の課題を改善するための会議の設置に協力し、12月に第1回を開催し検討をスタートしたところです。

この検討会を通じて、添乗員というお仕事が更に魅力ある職業となるよう期待しております。

三橋 高齢な旅行参加客が多いツアーに、添乗員の存在は不可欠と言われておりますが、添乗員の価値や在り方についてどのようにお考えでいらっしゃいますか?

田端 添乗員の価値は、特別な体験や知識を旅に求める方々、高齢になっても旅をしたい方々、テロや災害を心配する方々など多様化する旅行ニーズの中、益々高まっていると思います。

そのような旅行者は、添乗員が有する現地の知識、旅程管理能力や危機管理能力、そして楽しい演出や各種サポートがあるゆえに、添乗員同行のツアーを選択しているのだと思います。

添乗員同行のツアーは、このように高い付加価値のあるものだと旅行者にあらためてアピールすることも必要ではないでしょうか。

また、日本人の国内旅行や海外旅行に添乗することに加えて、近年は訪日外国人旅行者の国内旅行に添乗する機会も増えていると思います。添乗員の持ち前の語学力とホスピタリティを活かして、訪日外国人旅行者にも安心・安全・魅力ある旅を提供していただきたいと思います。

三橋 田端長官に添乗員の価値につきましても十分ご理解いただいき嬉しゅうございます。今後も益々のご活躍を申し上げるとともに、協会事業をご支援くださいますようお願い申し上げます。

広報イベント委員会主催「若年添乗員インタビュー」を開催

広報イベント委員会では、12 月 5 日（木）にまだ経験の浅い若年層の添乗員を対象にインタビューを行いました。このインタビューは添乗経験の浅い若い添乗員の意識やモチベーション、仕事のやりがい等を広く業界内外に知っていただくことを目的に開催しました。当日は8名のフレッシュな添乗員の方に集まっていただき、広報イベント委員会委員がインタビュアーとなって約 1 時間インタビューを行いました。

【インタビューにお答えいただきました添乗員のプロフィール】

A 添乗員 ：男性、30 歳、添乗経験 1 年、 国内を中心に添乗
B 添乗員 ：女性、23 歳、添乗経験 8 ヶ月、修学旅行を中心に添乗開始。募集ツアーにも従事。
C 添乗員 ：女性、21 歳、添乗経験約 1 年、修学旅行を中心に添乗開始。
D 添乗員 ：女性、26 歳、添乗経験 6 ヶ月、国内を中心に添乗
E 添乗員 ：女性、27 歳、添乗経験約 1 年
F 添乗員 ：男性、26 歳、添乗経験 4 年半、国内を中心に添乗
G 添乗員 ：女性、23 歳、添乗経験 2.5 年、国内・海外の添乗に従事
H 添乗員 ：女性、21 歳、添乗経験 8 ヶ月、国内・海外の添乗に従事

添乗員になったきっかけは？

A さん：建築関係の営業を行っていたが、退職をきっかけに自転車で世界中を旅して回り、そこで見た景色や人との出会いを通じもっと広い世界を見て回りたいと思い添乗員になることを決意。
B さん：大学在学中に 1 年間スペインに留学を経験。そこで添乗員という仕事を知り難しいとは思ったがチャレンジすることを決めた。
C さん：高校 2 年の時にバスガイドを見て憧れたが、国内だけではなく世界を見たいと思い、成田空港でアルバイトをしている時に出会った海外添乗員から色々話を聞き添乗員になることを決めた。
D さん：映画が好きで好きな映画のロケ地にあこがれてニュージーランドに 1 年間ワーキングホリデーで行き、その後、空港の保安検査場で検査官として働くが、もっと海外に携わる仕事をしたいと思っていたところ、母親から勧められて添乗員という仕事を知り転職。
E さん：大学卒業後、広告関係の営業として働いていましたが、以前から旅行業に興味があって、派遣会社に転職して資格を取得しました。両親からは正社員から派遣への転職で仕事が安定しないということで反対されましたが、自分のやりたかった仕事だったのでチャレンジした。
F さん：芸人になりたかったが叶わず、旅行好きの母親に勧められて添乗員になりましたが、一度添乗員をやめて旅行会社に勤務しましたが、添乗の現場が好きで添乗員に復帰。収入面が不安定なので 30 歳位を目途に安定した収入が期待できる仕事へ再度転職することも視野に入れている。
G さん：年間を通じて色々なところに行けることと、たくさんの人と関わりあうことができるやりがいのある仕事だと思い添乗員の道を選びました。また、所属会社は社員添乗員の募集であったこともあって家族の同意も得ることができた。
H さん：あまり活発に外へ出るタイプではないが、就職活動の際に添乗員という仕事があることに気づき、やってみたいと思い応募しました。

実際に添乗業務を行ってみて、どう感じましたか？

A さん：現在は国内ツアーを添乗しているが、仕事のストレスは全くと言っていいほどなく、こんなに楽しい仕事があるんだと日々感じながら添乗している。
B さん：所属会社の研修がしっかりしていることもあり、最初は不安もあったが、今は問題なく添乗できていると感じています。
C さん：実際の行程通りにツアーが進むことはほとんどないが、自分が思い描いているイメージ通りに旅程管理ができた時に喜びややりがいを感じることができる。
D さん：お客様と接することがとても楽しい。人の話を聞くことが楽しくて仕方がない。
E さん：お客様から理不尽な要求をされたりすると大変だと思いますが、前職より楽しくやりがいを感じています。
F さん：打合せ業務以外に自宅での下調べ（自主勉強）がこんなにきついとは思わなかった。
G さん：緊張はしましたが、次へ次へと自身のステップアップとして捉え、現在は国内・海外添乗ができるようになりました。
H さん：最初の添乗も今の添乗もすごく緊張します。ただ、毎回、お客様との何気ない会話に癒されています。

添乗業務のどういうところに面白さややりがいを感じていますか?

A さん：自分の添乗は、お客様の心を掴むためのインパクトのある自己紹介をするようにしている。自分の自己紹介にお客様がすごく反応されるところに面白さを感じるし、そのことで以降のお客様とのコミュニケーションが上手くいくことにやりがいも感じている。
B、C さん：様々な年齢層のお客様と接することができ、自分自身がその年齢層に合わせたキャラクターを設定して業務を行えるところ。
D さん：いろいろな人に出会えて、様々な価値観があることをツアーの添乗を通じて知ることができるところです。
E さん：知らない場所に行ける。お客様と理解関係なく接することができる（前職とは大きな違い）
F さん：「美食ツアー」の添乗をした際に、お客様と同じ食事が提供され、普段食べられないような食事を 10 日も味わうことができたことなど、普通の職業ではなかなか経験できないようなことが経験できるところ。
G さん：添乗時にお一人参加のお客様で何に対してもクレームを言う方がいた。ツアー中に話を重ねることで理解しあえるようになり、ツアー終了後も、連絡を取り合う仲になることができた。いろいろなお客様への対応は辛いこともあるがやりがいも感じる。
H さん：温泉地に行くことが多く、いろいろな温泉に入ることができ、普通の仕事では考えられないような体験ができることがこの仕事の醍醐味。

仕事をしていて一番大変だと感じることは?

A さん：添乗は朝が早いことです。早起きが苦手ですが、目覚まし時計を複数使って何とか起きています。
D さん：各旅行会社によって精算、報告の仕方が違うので、精算の仕方が違って怒られるのが辛い。
E さん：性格的に合わないお客様がいらっしゃっても合わせないといけないところ。
F さん：ピーク時等、連添が続くと体力的にきついところ。
G さん：お客様からのクレーム対応。
H さん：指示書とお客様の最終案内が 1 時間違っていたことでツアー中、お客様を 1 時間待たせてしまったことがあり、添乗前の下調べや確認の重要性を痛感した。

世代の違う顧客層への対応で、何か工夫していることはありますか?

B さん：修学旅行では学生や先生がお客様となるため、軽く見られないように心掛けている。ご年配のお客様に対してはその世代が関心のあることを話題にするようにしている。
C さん：ご年配のお客様に対しては初々しさをもってかわいがってもらえるように心掛けている。
D さん：どんなお客様の小言も嫌な顔をせずにとにかく聞く。そして一緒に解決策を考えることです。
E さん：ほとんどのお客様が自分より年上なので、上から目線にならないようにする。

今後の目標をお聞かせください。

A さん：できるだけ早く海外添乗に出たい。インドは自分が訪れたことがある国の中で一番好きなので、インドにぜひ行ってみたい。いつかは独立して自身で旅行に携わるような仕事がしたいと漠然と考えている。
B さん：現在は国内添乗を行っているが、次のステップとして海外添乗、インバウンドをやりたい。
C さん：海外添乗にデビューすることが近い目標。ゆくゆくは添乗の経験を生かして専門学校の先生になりたい。自身の出身校に添乗員の先生がいて、その先生のようになることが目標。
D さん：国内でしばらくは研鑽を積んで、ゆくゆくは海外添乗に出られるようになりたいです。
E さん：来月出るヨーロッパ添乗を皮切りに、1 ヶ国でも多くの国々を巡ることです。
F さん：海外添乗に出ることが今後の目標。
G さん：団体の仕事を内勤から手伝い、ツアー全体を完結できる添乗員になりたい。
H さん：海外添乗（アジア方面）が目標。

インタビューを終えて・・

今回ご協力いただいた添乗員さん全員が明るく、元気、素直で笑顔が素敵で魅力的な添乗員の方ばかりでした。不安定な仕事ながらも、添乗業務についてポジティブに捉えており、自身の今後に真剣に向き合って話していただいたのが印象的でした。今回のようなフレッシュな添乗員の方がもっと増えて、安心して働ける環境づくりをより一層行っていかないといけないと再認識させられたインタビューとなりました。

TCSA,JATA,ANTA 共催で「同一労働同一賃金セミナー」を開催

2020 年改正労働者派遣法において「同一労働同一賃金」が義務化されます。 これは派遣先である旅行会社にとっても配慮義務が課せられることから、TCSA だけではなく、JATA 及び ANTA 会員の旅行会社の方々にも十分理解してもらいたいことから、 三団体共催でセミナーを実施することとしました。
講師には厚生労働省及び労働局の担当官を招いてお話しいただきます。
また、 本セミナーは当日会場に来れない方のために、 Web 視聴（ライブ中継）も可能なセミナーとなっております。

【大阪】
開催日時：2020 年 1 月 22 日（水）14:00 ～ 16:00
開催場所：エルおおさか会議室
講　　師：大阪労働局　需給調整事業部　需給調整第2課

【東京】
開催日時：2020 年 1 月 23 日（木）14:00 ～ 16:00
開催場所：全日通会議室
講　　師：厚生労働省　職業安定局　需給調整事業課

第 34 回通常総会のお知らせ

2020 年度の通常総会は以下の日程及び場所にて開催いたします。 是非ともご出席賜りますよう、スケジュール調整の程、 よろしくお願いいたします。

日　時：2020 年 3 月 19 日（木）14:00 ～
※総会終了後、 懇親会を 18:00 から予定しております。
場　所：メルパルク東京

会員動向

正会員

●入会
（株）旅行綜研 東日本（2020 年 1 月 1 日入会予定）
東京都港区虎ノ門一丁目4番2号　代表取締役　石井 光彦

●入会
（株）旅行綜研 西日本（2020 年 1 月 1 日入会予定）
大阪府大阪市中央区瓦町4丁目5番9号　代表取締役　石井 光彦

●住所変更
（株）ティーシーエイ
新住所：〒171-0022　東京都豊島区南池袋2丁目29番12号　メトロシティ南池袋8F
電話：03-5927-9330　FAX：03-5927-9333（電話番号・FAX 番号は変更なし）

○○○○編集後記○○○○

新年号「令和」が希望にあふれた輝かしい時代の幕開けとなるよう祈願しつつ迎える年の瀬、 添乗を専門職とする人達は何処の地でどんな新年を迎えるのでしょう。 新しい年が穏やかであってほしいと祈りつつ・・・
（S.M）

一般社団法人　日本添乗サービス協会
〒105-0014 東京都港区芝 1-10-11 コスモ金杉橋ビル6階
TEL(03)6435-1508・FAX(03)6435-1509
E-mail tcsa@tcsa.or.jp
URL http://www.tcsa.or.jp/